

著名人たちと話題の店で、激動の今年を振り返る。

TOKYO CALENDAR

東京カレンダー

2 February 2021
no. 235
定価 815YEN

Cover
今田美桜
Mio Imada
今年は一回も制服を
着ませんでした

市川猿之助

人との縁が、流れを作る @慈華itsuka

上白石萌音

躍進を支えたブレない芯 @Li.nu

千葉雄大

あざとさに隠された真実 @鮎 辰也

山本舞香

ハンサムな女が見据える未来 @Yoruya

柄本 佑

酒が男を格好よくする @創和堂

木嶋真優

美食を極めるといこと @焼肉 思食

ジェシー (SixTONES)

次世代を担う男の目線 @B

山下美月 (乃木坂46)

センターの条件 with 最新ヒットスイーツ

長嶋一茂

直球勝負の男。@鏝輝

稲森いずみ

変わらないこと。@Patous

仲野太賀

15年目のブレイク。@H-acca-

石橋貴明

大物は、諦めない @東京エディション虎ノ門

I Don't Like Mondays.

令和のモテる男たち @アロフト東京銀座

2020年、 輝いた人、 輝いた店。

SPECIAL SHOOTING
大人たちのクリスマス

佐藤浩市
×
石田ゆり子
×
西島秀俊

SPECIAL TALK 俳優 辰巳琢郎

2020年の
ニューリーダーたちに告ぐ

File. 75

俳優

辰巳琢郎

あらゆる分野と繋がるワイン産業から 日本の問題点を洗い出す

NHKの連続テレビ小説『ロマンス』で、華々しい全国デビューを飾った辰巳琢郎氏。その後、ドラマや映画だけでなく、クイズ番組やバラエティ番組でもその個性を生かし、お茶の間の人気者となった。活躍の場はテレビに留まらない。好奇心旺盛で多彩な趣味を持つことから、合唱、料理、囲碁、ゴルフなど幅広い業界から声がかかり、その普及・啓発を託されている。なかでも熱心に取り組んでいるのが、「日本のワイン」の普及活動だ。『日本のワインを愛する会』会長として、精力的に活動する辰巳氏が、日本のワインの可能性と抱える課題について語り尽くす。

ホスト・金丸恭文 フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長

Photos/Nobuhiro Shimoyama, Proofreading/Yuki Kobune

金丸 本日は俳優の辰巳琢郎さんをお招きしました。お忙しいところ、ありがとうございます。

辰巳 こちらこそお招きいただき光栄です。

金丸 本日の舞台は赤坂の『かがみ』です。大將は山梨生まれで、以前は山中湖に自分のお店を持たれていました。東京からお客さんがやってくるいいお店で、私も時折訪ねていたのですが、あるとき、忽然となくなっていました。

辰巳 何があったんですか（笑）。

金丸 もともとご実家の都合で山梨に戻られたようですが、再び東京へ、『紀尾井町三谷』で副店長を務めたのち、昨年の秋にこちらをオープンされました。久々に大將の鮨を味わえるので、非常に楽しみです。

辰巳 そんなお話を聞くと、期待が高まります。

金丸 さて、辰巳さんとは年が近いこともあり、これまでも親しくさせて頂いていただいています。最後にお会いしたときから、随分スリムになられたようですね。

辰巳 実はコロナがきっかけで、一時は8キロもやせてしまっただけです。

金丸 何があったんですか？

辰巳 単純な話で、僕は朝食と昼食を抜くかわりに、夜に何度も食べるのが多いんですが、コロナの影響でお店が開いていなくて。おかげで血圧は30〜40、コレステロールは70下がりました。

金丸 ものすごく健康体になりましたね（笑）。私の周りにもコロナをきっかけに筋トレを始めたたり、朝型の生活になったりと生活習慣を変えた人は多いですね。ところで、最初に「俳優」とご紹介しましたが、辰巳さんはご活躍の幅が本当に広がっていらっしゃいますよね。

辰巳 金丸さんも政府関係で、いろいろな委員を歴任されているじゃない

たつみ・たくろう 大阪教育大学
附属高校天王寺校舎2年生の時、
つかこうへい氏の舞台に感銘を受
け、芝居を始める。京都大学文学
部在学中、関西では人気、実力と
もにNo.1の『劇団そとばこまち』
を主宰し、役者としてだけでなく、
プロデューサー、演出家として80
年代前半の学生演劇チームの立役
者となる。卒業と同時にNHK朝の
連続テレビ小説『ロマンス』にて
全国区デビュー。以来、知性・品格
・遊び心と三拍子揃った俳優とし
て幅広く活躍している。ジャケット
¥230,000、シャツ¥27,000、チ
ーフ¥9,000 (すべてランバンコレ
クション©03-5213-2532)





「ブランドに弱い日本人にも受け入れられるような情報発信が必要」(金丸)

いのですか。

金丸 辰巳さんにはかないませんよ。近畿大学では教員もされていますし。

辰巳 近大の客員教授は、もう10年になりますね。最近、ノーベル平和賞で話題になった国連WFP協会国際連合世界食糧計画の支援団体)顧問なんて肩書もあります。

金丸 そして、『日本のワインを愛する会』の会長でもいらっしゃる。今日は辰巳さんがこれまで歩んできた道について伺いますが、ワインのこともぜひ聞かせていただきたいと思っています。

辰巳 ぜひ。実は11月にも国税庁主催の『日本ワインを身近で楽しむ会』というイベントで、総合同会をやらせていただきました。3日間、1日2回、全国12会場をオンラインで繋ぐという大きなイベントです。

金丸 それはなかなかハードですね。**辰巳** 東京と横浜にはすぐに申込みが殺到したのですが、ほかの地域はぼちぼち。もっと日本のワインの魅力を伝えていかなければと思いますね。

金丸 この対談連載は、近頃日本ワインづいていまして。この半年で、『中央葡萄酒株式会社』の三澤彩奈さん、『MGV、ワイナリー』の松坂浩志さん、そして辰巳さんにご登場いただいています。

辰巳 そのおふたりと並べられるなんて恐れ多い。**金丸** でも、辰巳さんもワインを造っているでしょ？

辰巳 プロデュースですね。「今様(いまよこ)」というワインなんです。マンスワイン勝沼ワイナリーさんに造っていただいています。

金丸 最初は読み方がわからず、「いまさま？」なんて読んだりしていました(笑)。**辰巳** 「これはなんて読むのかな？」という引っかかりもいかなと思っ

たんです。今様というのは、「今風」「現代風」という意味で、平安時代末期には「遊びをせんとや生れけむ」で知られる今様歌(いまようた)というのがあります。

金丸 そこから取ったんですか。さすが文学部出身ですね。

辰巳 歌だけでなく、今様色という表現もあり、ほぼ赤系の色だったそうです。流行色という意味ですから時代によって移り変わりがあって。だから「今様」は毎年ブランドを変えていて、色も違うんですよ。

金丸 面白いこだわりですね。**辰巳** 実は今日お持ちしたので、あとでお贈り一緒にいただきますよ。

金丸 それは楽しみです。今日はどうぞよろしくお願いします。

大阪育ちで大阪弁 根っから心も大阪人

金丸 早速ですが、お生まれは大阪ですよ。

辰巳 正確には石川県生まれなんです。両親とも石川出身で、里帰り出産だったので。でも育ったのは、大阪市の住吉区。中学3年のときに、僕が住んでいた住吉区の西側が分離して、今は住之江区になっている地域です。川を渡れば堺市という立地で、大阪市の一番はずれでした。金丸さんも大阪ですよ。

金丸 うち両親が鹿児島出身ですが、私自身は枚方市生まれです。大阪市東淀川区の小学校に通い、中学生のとき泉大津市に転校して。

辰巳 結構近いエリアにいたんですね。僕は今でも大阪弁ネイティブですが、金丸さんは大阪弁しゃべらへんのですか？

金丸 いきなり大阪弁(笑)。私はその後、鹿児島に引っ越しましたが、今でも大阪弁の人と話していると、つられて出てきますよ。

辰巳 僕は大阪弁でもかまへんの

すけど、やめときましょか(笑)。大阪育ちということもあって、お好み焼きや串カツといった、いわゆるB級グルメが大好きです。

金丸 そうなんですか。辰巳さんくらいになると、毎日豪華なものを食べているのか？

辰巳 美食ばっかりはよくないですよ。どちらかというと、居酒屋とか屋台みたいなところが落ち着きます。真夜中のバーのカレーライスとかカツサンドとかも最高ですね。

金丸 関西人はそうですよ。**辰巳** とここで金丸さんは結構、お酒を飲みますよね。

金丸 酒に強いというよりは、酒が好きタイプです。**辰巳** 鹿児島だとやはり焼酎でしょうか？

金丸 もちろんです。お酒といえば焼酎。日本酒という概念は、鹿児島にはないですね。今でも「清酒」とか「日本酒」と頼まない限り、焼酎が出てくる店が多いですよ。

辰巳 うち日本酒でしたね。**金丸** いきなりお酒の話になってしまいました。子どもの頃はどのような遊びを？

辰巳 小学校の頃は、野球少年でした。当然のように阪神ファンでしたが、金丸さんは？

金丸 私も筋金入りの阪神ファンです(笑)。

辰巳 あの頃は名投手の村山実さんがいて、さらに江夏豊さん、田淵幸一さんという逸材が入ってきて、という黄金時代でしたね。中学ではテレビの影響でバレーボールをやった。高校ではカヌー部に入りました。

金丸 カヌーですか。珍しいですね。**辰巳** 中学、高校と大阪教育大学の附属に通ったんです。高校に大阪府下で唯一というカヌー部があったんです。

金丸 そこでカヌーを選ぶというの

が、辰巳さんの好奇心の強さを表していますね。その後もいろいろなスポーツを経験し、大学に入ってから演劇に？

辰巳 いえ、カヌーは1年だけです。2年生のとき、つかこうへいさんの舞台を見て衝撃を受け、すぐに同級生と一緒に劇団を作りました。

金丸 では、そのときから俳優を目指すようになったのですか？

辰巳 いえ、最初から俳優になりたいと思っていたわけではないんですよ。どちらかといえば、芝居そのものが好きで、「役者になろう」と本気で思ったのは、大学生だった25歳のとき、NHKの連続テレビ小説『ロマンズ』に出演してからです。主演は榎本孝明さんで、ふたり主役でしたが、僕は二番手。オーディションのために京都から東京へ4回通ってようやく射止めました。



古来より日本に自生していた山ぶどうと、日本を代表する甲州種をどうと、日本を代表する甲州種を使用し、シャルマ方式で造り上げた、本格的な味わいのロゼのスパークリングワイン。山ぶどうの野生味あふれる酸味と甲州種のデリケートな風味が調和した、豊かな味わいが特徴。酵母によって生み出された炭酸ガスにより、長く続く繊細でなめらかな泡を楽しめる。【今様】希望小売価格¥2,900

金丸 辰巳さんも榎木さんも、その作品がテレビでの全国デビューしたよね。

朝ドラで全国デビューするも 悩みながらの俳優生活

辰巳 京都大学への入学が決まったあと、入学式よりも前に京大で活動していた「劇団卒塔婆小町（そとばこまち）」に入団しました。その後は芝居中心の生活でしたが、僕にとって芝居作りはものづくりと同じ感覚なんです。だから「役者がいい」「裏方は嫌だ」なんて感覚がなくて。

金丸 そういふものなんですか。

辰巳 劇団では役者として舞台にも立ったけど、演出をしたり、制作や宣伝という裏方の仕事も好きでやっていたんです。ですから『ロマンズ』で役者として注目されたとき、正直に言うと、「これじゃあ役者を辞められない」とちよつと困惑しました。

金丸 でも辰巳さんを裏方にしておくのは、もったいないですよ。

辰巳 本当は『ロマンズ』が終わったあと、すぐ劇団に戻って、またみんなと一緒に芝居をしようと思っていたんですが……。

金丸 なかなか難しいでしょう。なんといつても、NHKでデビューして売れっ子の仲間入りを果たしたんだから。

辰巳 でも、そのあとは何年も苦労しました。演技についてはずっと自己流で、基礎もきちんと勉強したわけじゃない。いわゆる小劇場出身の役者は芸能界にたくさんいますが、それぞれ苦労されたはずですよ。

金丸 舞台と映像では、やっぱり要求される演技も変わるのですか？

辰巳 全然違いますね。言葉遣いひとつにしても。標準語の芝居もそれまでにしてきましたが、きちんとした東京弁がしゃべれるようになるまでには時間がかかりました。芝居演

けの毎日で、ろくに授業も出ていなかったので、卒業するのに7年もかかってしまい、その最後の年に『ロマンズ』のオーディションに合格。それが24歳のときで、それから30歳を過ぎるまではずっと伸び悩んでいた感じですよ。

金丸 今の辰巳さんからは、そんな時期があつたなんて想像できません。

辰巳 この道が続けるかどうか、悶々としていました。

金丸 ちなみに辰巳さんは、オーディションでの合格・不合格はどのよ

うな要素が決まるとお考えですか？

辰巳 新人であれば、ぱつと見の雰囲気と、役に合うかどうか、それから話題性でしょうね。『ロマンズ』の前のテレビ小説が『おしん』。最高視聴率60%を超えた、あのおげげ番組です。行き着くところまでいったから、次は男性を初めて主役にしよう。

金丸 そこで見事に選ばれたのが、辰巳さんと榎木さんだった。

辰巳 榎木さんはずっとと劇団四季で主役を務めた方です。演目の方向性で採めて、四季を退団されました。

辰巳 そうですね。『ロマンズ』がなければ、やっぱり裏方をメインにしていたかもしれません。実際にいろいろな劇場から「プロデューサーを

一方の僕は関西の小劇場出身ですから、まさに対比の構図ですよ。それに京大出身というネームバリューもあって、拾っていただけたんだらうと思っています。

金丸 大学卒業前のオーディションで朝ドラに抜擢され、役者として生きていくことが決まるなんて、ドラマチックですね。

辰巳 そうですね。『ロマンズ』がなければ、やっぱり裏方をメインにしていたかもしれません。実際にいろいろな劇場から「プロデューサーを

やらなにか」と声をかけていたのかもしれないし、それが一瞬でがらつと変わって。朝ドラで大勢の中から選んでいただいたのだから、役者として一人前にならなくちゃ申し訳ない、と思いつながら今までなんとか続けてこられた、という感じですよ。

辰巳 はい。ですから「日本ワイン元年」とも言われています。それを区切りに、「日本ワインを愛する会」が掲げていた「日本ワインという名称を普及させる」、「日本ワインを実際に飲んでほしい、おいしさを知ってもらおう」という目標は達成されたと考えました。結果、「日本ワインを愛する会」を一旦解散して、新しい目標に向けて「日本のワインを愛する会」を立ち上げたんです。

金丸 「の」の文字が入っているかどうかで、「日本ワイン」だけを愛するのか、「国産ワイン」も愛するのか、意味がだいぶ変わりますね。

辰巳 そういふことです。日本各地に素晴らしいワイナリーができ、ワインファンも増えているなか、プラットフォームとしての役割を果たすのが会の目的です。

金丸 しかし、日本のワインは本場にレベルが高くなりました。

辰巳 そうなんです。それに手頃な

『日本のワインを愛する会』会長としての顔

金丸 ではワインの話を、単刀直入に、いつどんな出合いで、ワインのめり込むことになったのですか？

辰巳 一応、最初に断っておくと、ワインだけが特別に好きというわけでもないんですよ。日本酒だって好きですから（笑）。金丸 では「日本のワインを愛する会」というのが正確なのかもしれませんね（笑）。

辰巳 そもそもそのきっかけは、2003年に『日本ワインを愛する会』を立ち上げるから、副会長

になってくれ」と声をかけられたことです。いわば広告塔として、白羽の矢が立ったわけですね。

金丸 どうして辰巳さんに声がかかったのでしょうか？

辰巳 世間ではワイン好きの芸能人というイメージを持たれていたように、やっぱり『くいしん坊！万才』の影響ですかね。

金丸 BSではワインの番組もお持ちですかね。

辰巳 ええ。でもあの番組は副会長になったあと、日本ワインの普及のために始めたんです。こちらも15年続いています。そして、2018年に会長に就任しました。

金丸 2018年というと、「日本ワイン」と「国産ワイン」が法律上で分けられた年ですね。国内のぶどうを使って、国内で醸造したものだけが「日本ワイン」と名乗ることができるようになった。

辰巳 はい。ですから「日本ワイン元年」とも言われています。それを区切りに、「日本ワインを愛する会」が掲げていた「日本ワインという名称を普及させる」、「日本ワインを実際に飲んでほしい、おいしさを知ってもらおう」という目標は達成されたと考えました。結果、「日本ワインを愛する会」を一旦解散して、新しい目標に向けて「日本のワインを愛する会」を立ち上げたんです。

金丸 「の」の文字が入っているかどうかで、「日本ワイン」だけを愛するのか、「国産ワイン」も愛するのか、意味がだいぶ変わりますね。

辰巳 そういふことです。日本各地に素晴らしいワイナリーができ、ワインファンも増えているなか、プラットフォームとしての役割を果たすのが会の目的です。

金丸 しかし、日本のワインは本場にレベルが高くなりました。

辰巳 そうなんです。それに手頃な



価格なのにおいしい。僕も普段は、3000円くらいまでのワインをおいしく飲んでますよ。ただ、ちょっと高級なお店に行くと、料理とのバランスが取れないと考える人も多くて、結果的に日本のワインよりも値段の高い海外のワインを選んでしまうんですよ。

金丸 高級といえは、フランスワインを連想しますから。そういう意味では、やはりフランスはマーケティングがうまいですね。

辰巳 フランスはわかりやすく発信するのが上手だし、「フランスワインこそ本物のワインだ」と言わんばかりの影響力を振るっています。たとえば、ワイン用語はフランス語が世界の共通語で、ソムリエコンクールもフランス語が英語でしか戦えません。もちろん、フランスワインだって悪くないんですよ。

金丸 うん。おいしいものはおいしい。それは間違いないですね。

辰巳 でも個人的には、フランスワインよりイタリアワインのほうが断然面白いと思っています。ぶどうの品種が多く、個性的なワインがいっぱいあって、クラフトマンシップの強いこだわりを感じます。

金丸 日本人ってブランド志向だから、やっぱりフランスには弱いんですよ。フランスの中央集権的な発信の仕方はわかりやすいし、飲むほうも「このワインはこういう位置づけだ」と教えてもらったほうが、安心して飲めちゃうんですよ。

辰巳 フランスの巧妙なマーケティングに、うまく乗っけられていることに気づいてほしいものです。

マーケティングや流通

日本のワインが抱える課題

辰巳 僕は、日本人のワインの好みはもっと多様化したほうがいい、と思っています。もったいないじゃないですか。

いんですか。日本をはじめ、イタリアやスペイン、オーストリアやスイス、ギリシャなど、おいしいワインはいくらでもある。それなのに少し高級なお店だと、フランスワインしか扱っていないところも多くて、ちょっと悲しくなりますね。もっと各国のワインを取り揃えてほしいなと。

金丸 ひよっとすると、お店の方も日本のワインのおいしさをあまり知らないのかもしれないですね。それこそ

「ら」と思って飲むのでは、全然違うと思いますよ。ところで、辰巳さんの「今様」をいただきたいでもいいですか？

辰巳 もちろんです！ ロゼのスパークリングで、辛口に仕上げられています。2015年のものなんですけど、ようやく熟成が入ってきました。

金丸 ん！ おいしい。面白い味わいですね。

辰巳 面白いでしょう（笑）。世界中

だけでなく、山ぶどうにも「小公子」や「山幸」「山ソービニオン」など、いい交配種が生まれています。

金丸 日本の気候があるからこそ、日本のぶどうが育つ。その土地だからこそ生まれるワインには、何ともいえない魅力があります。

辰巳 一方で、日本ワインの問題点は、流通の悪さにあります。まず生産する本数自体が少ないし、利ざやが小さいので、酒屋さんが扱いたが

割」をつけてあげたらいけないですか？

辰巳 そうですよ。実際にワイナリーに足を運んでくれた人には安く提供するとか、方法はいろいろあるはずですよ。酒税の撤廃も、ひとつの案だと思います。

金丸 なるほど。

辰巳 というのも、ワイナリーは零細企業がほとんどで、家族経営だったり、たったひとりです造っていたりするケースも少なくありません。それに加えて、酒税関係の膨大な書類作りや役所からの細かい指導に対応しなければならぬ状況です。もっと、いろいろな発想を持って自由に、ワイン造りに集中できる環境を整えることが、ワイン産業の発展に繋がるのでは、と思っています。

金丸 私は以前から、国税庁が酒類の担当省庁という点がずっと引っかかっていて、ワインはぶどうから造るから、農林水産省が担当した方がいいはずですよ。

**俳優という本業を忘れず
ワイン界にも貢献したい**

辰巳 ワインって、ものすごく裾野が広いんです。一次産業とも繋がっているし、観光業との相性もとてもいい。ワインを通じて考えさせられることがたくさんあります。金丸さんは農協改革や漁協改革にも携わっていらっしゃいますよね。IT企業の経営者として、納得のいかないことがたくさんあるんじゃないですか？

金丸 そうですね。農業や漁業は流通の仕組みが複雑で、消費者のもとに届くまでにたくさん人の手を介します。たとえば漁業の場合、漁師が釣った魚は地元の市場と豊洲市場を経て、店頭に並びます。その間、まず属している漁協で手数料を払い、産地市場で仲買人と卸に手数料を払い、さらに豊洲市場で仲卸と卸に手



金丸恭文 フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長

大阪府生まれ、鹿児島県育ち。神戸大学工学部卒業。
1989年起業、代表取締役就任。

辰巳さんの出番ですよ。たとえば、辰巳琢郎プロデュースでペーリングを提案するなんて、どうですか？

辰巳 なるほど。やらせてもらえらなら、全部リストを作ってもいいです。

金丸 何か文句があったら、「辰巳さんに言ってください」と（笑）。

辰巳 全然構いませんよ（笑）。

金丸 きっと、お店から提案されて「えっ、日本のワイン？」と半信半疑で飲むのと、「辰巳さんのお薦めだけ

どこにもないワインを造ることを目指していますから。

金丸 スパークリングにしたのはなぜですか？

辰巳 華やかだし、僕自身、スパークリングが好きで。ぶどうは「甲州」と「山ぶどう」を使っています。

金丸 華やかさのなかに、パンチがありますね。

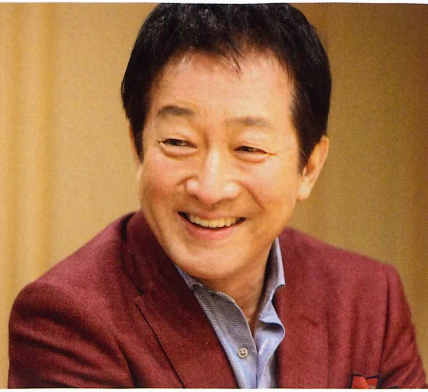
辰巳 山ぶどうの凝縮感と酸味ですね。甲州やマスカット・ベリーA

らないんです。輸入ワインの仕入れ値はだいたい6掛けですが、日本ワインはよくて8掛けですからね。

金丸 そんなに違うんですか。だったら、日本ワインの値段をもっと高くないと。

辰巳 それが「高くすると、これまで飲んでくれた地元の人たちに申し訳ないから」とおっしゃる生産者の方が多いいんです。

金丸 ならば、地元の人には「地元



「おいしいワインは世界中にある。日本人の好みはもっと多様化している」(辰巳)

を描いた上で、さまざまな課題を解決してくれる政治家に出てきてほしい。『日本のワインを愛する会』の会長として、首長さんや官僚の方々と話す機会が多いのですが、出来るだけ長いスパンで考えましようと話しています。

金丸 日本は「デザイン」を軽視しがちだと思います。象徴的な話がある、金融危機で京都の老舗呉服店が倒産したとき、日本企業はその店の着物の在庫を安く買い叩きました。一方で、某ラグジュアリーファッションブランドは着物のデザイン画を買ったんですよ。

辰巳 その違いは大きいですね。いくら着物を安く仕入れられても、1回売ってしまえばそれきりですから。

金丸 そのとおり。でもそのブランドは、和の絵柄を活用した商品を作り続けることができる。着物そのものではなく、京都の歴史と伝統が凝縮されたデザイン画を選んだわけですね。

辰巳 エネルギー問題だって、発想の転換が必要ですよ。再生エネルギーの可能性がいろいろ議論されていますが、なかなか進まない。でも日本ほどあちこちで温泉が湧いている国はないのだから、本気で地熱発電に取り組んだっていいじゃないですか。温泉が出なくなるなんて反対意見もあるそうですが、エネルギー量のケタが違うと聞いています。

金丸 毎日温かいお湯が出てくるって、すごいエネルギーですからね。あるいは、国土の7割を占める山林を利用したバイオマス発電だって、可能性は十分あると思いますよ。若い人たちがどんどん新しいことに挑戦できるように、われわれの世代がエールを送り続けなければいけません。

辰巳 本心にそう思います。
金丸 最後に、辰巳さんはこれから

どのような道を歩まれるのですか？

辰巳 緊急事態宣言が出る直前の今年の3月、キューリー夫人を題材にした舞台をやりました。その後、社会情勢的に公演をやりづらい状況ではありますが、このところ演技にじっくり取り組む時間をあまり持ていなかったなと感じているんです。ですから、やっぱりもっと舞台に立ちたいし、俳優の仕事をしたい、と改めて思っています。実は、来月1月の舞台も急に決まったんですよ。ぜひ観てくださいね。基本的に立ち返る

と、僕は役者で小劇場出身。本業をきちっとやりつつ、ワインをアイコンにした地方の活性化や、食文化の啓発などに取り組んでいきたいですね。とはいえ人間、そんなにいくつもやれませんが(笑)。

金丸 いや、十分なくらい、いくつもやっていらっしゃる(笑)。さらに多くの人が日本のワインの魅力に気づき、各地のワイナリーが発展していくために、これからも辰巳さんのご活躍に期待しています。今日は本当にありがとうございました。

今夜の舞台



『かがみ』

名店『三谷』仕込みの鮓と、圧巻のペアリングを体験する

赤坂駅から徒歩5分ほどの場所にひっそり佇む同店。半地下に店を構えるので、初めての客は必ず見逃してしまう、正真正銘の隠れ家鮓だ。大将の加賀美壽男氏は予約困難で知られる『三谷』の出身。『三谷』の店主・三谷康彦氏が初めて自身の店出身を名乗ることを許したという。昼夜ともに、おまかせのみ¥20,000〜。日本酒、ワイン、幅広いペアリングとともに堪能したい。

◎港区赤坂2-16-6 TKビルB1F ◎03-6277-6855 ◎12:00〜23:00 (完全予約制) ⑥水 ④6席